

環境調査結果のお知らせ

令和7年4月28日10時から野見湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なヘテロシグマ・アカシオが最高で560 cells/mL、ケラチウム属が最高で3 cells/mL確認されました。また、麻痺性貝毒の原因種であるアレキサンドリウム属が最高で8 cells/mL確認されました。今後、ヘテロシグマ・アカシオは増殖して赤潮を形成するおそれがありますので、注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ヘテロシグマ・ アカシオ	ケラチウム 属	珪藻	アレキサンドリウム 属
	(m)	(℃)		(mg/L)				
1 防波堤内側 (8.9m) 【10:32】	0	19.3	20.5	8.8	0	0	-	0
	2	19.9	33.1	8.3	0	0	-	4
	5	19.4	33.8	8.1	0	0	-	0
	10	18.6	34.3	7.9	0	0	-	0
	底層 13	18.1	34.5	7.8	-	-	-	-
A ガラク (7.8m) 【10:24】	0	19.6	33.3	8.1	0	0	-	0
	2	19.7	33.6	8.1	0	0	-	0
	5	19.3	33.9	8.0	0	0	-	0
	10	18.7	34.2	8.1	0	0	-	0
	底層 13	18.3	34.4	8.0	-	-	-	-
2 須崎木材工業団地 前 (4.3m) 【10:40】	0	20.1	30.7	8.3	0	0	-	8
	2	19.8	33.1	8.4	-	-	-	-
	5	19.3	33.8	7.9	0	3	-	0
	10	18.4	34.3	7.5	-	-	-	-
	底層 12.5	18.1	34.5	7.2	-	-	-	-
B 勢井 (7.3m) 【10:50】	0	19.8	33.5	7.9	0	0	-	0
	2	19.7	33.7	7.9	0	0	-	0
	5	19.2	34.0	7.7	120	0	-	0
	10	18.5	34.4	7.8	260	2	-	0
	底層 17	17.8	34.5	7.8	-	-	-	-
C 馬の背 (6.5m) 【10:56】	0	19.9	33.6	8.1	0	0	440	0
	2	19.8	33.7	7.8	0	0	200	0
	5	19.3	34.0	8.1	300	0	200	0
	10	18.5	34.3	8.0	80	0	40	0
	底層 22	17.7	34.5	8.1	-	-	-	-
D 大室戸 (5.7m) 【10:17】	0	20.0	33.6	8.4	0	0	-	0
	2	19.8	33.8	8.4	0	0	-	0
	5	19.1	34.0	7.8	160	0	-	0
	10	18.4	34.4	7.9	50	1	-	0
	底層 19.5	17.8	34.5	8.2	-	-	-	-
E 大谷漁港内 (4.5m) 【11:05】	0	20.1	33.5	8.4	0	2	-	0
	2	20.0	33.7	8.4	0	1	-	0
	5	19.4	34.0	8.2	0	0	-	0
	底層 7.5	18.7	34.3	7.8	-	-	-	-

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度	水温	塩分	溶存酸素	ヘテロシグマ・ アカシオ	ケラチウム 属	珪藻	アレキサンドリウム 属
	(m)	(℃)		(mg/L)				
F 湾奥ブイ (5.2m) 【10:01】	0	20.2	33.6	8.5	0	0	280	0
	2	20.0	33.7	8.7	0	0	500	0
	5	19.4	34.0	8.8	100	0	80	0
	6	19.1	34.2	8.6	400	0	-	0
	10	18.4	34.4	7.8	260	1	10	0
	底層 15.5	17.9	34.5	7.3	-	-	-	-
3 タンポ (4.7m) 【10:10】	0	20.0	33.6	8.3	320	0	-	0
	2	20.1	33.7	8.5	560	0	-	2
	5	19.9	33.8	9.1	200	1	-	1
	10	18.1	34.5	7.9	0	0	-	0
	底層 12	18.0	34.5	7.9	-	-	-	-

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレンニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度
※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度
※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



1: 防波堤内側

A: ガラク

2: 須崎木材工業団地前

B: 勢井

C: 馬の背

D: 大室戸

E: 大谷漁港内

F: 湾奥ブイ

3: タンボ